



昭和34年4月18日制定

あさひ

1月号

令和4年 1月 7日
横浜市立旭小学校



<公式WEBページ> <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/asahi/> 随時更新しています

「汎用的な能力」を育てるために

～本年もよろしくお願いいたします～

校長 益子 照正

令和4年を迎えました。旭小学校にとりまして121年目のスタートです。本年もよろしくお願いいたします。

さて、私にとっての正月といえば、もはや風物詩のひとつになった「箱根駅伝」を欠かすことができません。今年の総合優勝は青山学院大学、記録づくめの圧倒的な優勝でした。そのランナーの走りや青山学院大学陸上競技部（長距離ブロック）の姿勢から、現在の教育に求められているものを連想していたのは私だけではないと思います。

オリンピックをはじめ、雌雄を決する競技会の決勝では「記録よりも勝負に徹する」ことが王道であるとよく耳にします。それは、記録に執着するあまり勝利を落としてしまっただけでは意味がないという考え方からです。しかし、今回の青山学院大学は8区から9区に襷をつないだ戸塚中継所ではほぼ勝利を手中にしていたにもかかわらず、あえて記録にも挑んだのですから驚きでした。まさに「記録にも、勝負にも妥協なし」といった姿勢でした。記録に挑むことでランナーには大きな負荷がかかります。アクシデントの発生率も上がり勝利を手放してしまう可能性もあったでしょうし、安全策をとって確実に勝利を掴む選択肢もあったはずですが、しかし、9区、10区の選手は果敢に攻めていずれも区間新記録を樹立、殊に23kmを越す長丁場となる9区では14年間破られていなかった区間記録をも更新する大チャレンジでした。大会前、エントリー選手の持ちタイム優位性から他校を圧倒する走りを見せるとした「パワフル大作戦」をさらりと公言通り実現させたのです。

レース後の番組で監督の原晋氏が「日頃から考えさせるということをしているので、こういうレースでも発揮できる。私の指導はバシッと答えを言う指導ではない。ヒントを与え、それを選手たちが自分でどうアレンジするかが青学のスタイル」と語った言葉が印象的でした。

実施2年目になる新しい小学校学習指導要領では、子どもが「決まった答えのない課題に主体的に取り組み、試行錯誤しながら新しい価値を創造する」ことが重視されています。青山学院のランナーたちは選手としてのキャリアを終えた後、その何倍も長いであろう社会人として必要とされる資質・能力である思考力や判断力を、陸上競技とは別の形であっても活用できる「汎用的な能力」として日々の取組から獲得しているのだと思います。私たち教職員にとって、あさひっ子の「汎用的な能力」を育てるためにどのような教育を進めていけばよいのかについてのヒントになっているような気がします。

どうやら日本においても感染拡大第6波の兆候が見え始めました。コロナ禍での教育活動においてはまだまだ制約がつきまといそうです。そんな中においても可能な限りの教育活動を実現させていく所存です。今年もご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。